

ふれあい

NO. 247

2014. 1. 15

社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会
大阪市天王寺区東高津町 12-10

大阪市立社会福祉センターB1F

発行責任者 小泉 いと子

TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623

<http://city-osaka-ikuseikai.or.jp>

就任のごあいさつ

第10期理事長 小泉 いと子

新年あけましておめでとうございます。

笹野井理事長の後を継ぎ、新理事長に就任させていただきます小泉でございます。理事長に推薦いただいた時には、このような大役が自分に務めることができるかどうか考えましたが、前理事長から「親の会である育成会は、親が守って欲しい」と言われた言葉が、心に強く響き決心致しました。

私が育成会に入会したのは23年前のことで、小学部に入学と同時に、学校内での活動に参加するようになりました。まだまだ進路の道があまり開かれてない時代でした。多くの先輩方が子供達のために手作りの商品やバザーでの販売に汗して、作業所づくりに努力されていました。

改めて今振り返れば、早い段階で子供の将来を真剣に考えるきっかけをいただいたと感謝しています。学齢期で過ごす間に、部会活動等いろいろなことを学ばせていただきました。そして障がいのある子供や親たちの仲間づくりの大切さも、この時期の付き合いや係わり合いの中で体感しました。過ぎていった時間の中で失敗したことも、辛かったこともたくさん経験しましたが、今から思えばどんなことも無駄なことではなく、数々の困難の中で「あきらめない心」を持てるようになりました。

全日本手をつなぐ育成会の機関紙『手をつなぐ』の平成26年1月号で「全日本育成会は何のためにある？」と題し、久保理事長が次のように述べられています。



「育成会は知的障がいがあるわが子の幸せを願う親、家族が思いを共有し悩みや不安を解決していくために、手を携えながら誕生してきました。私たちはもともと個人個人が連合して成り立ってきた組織です。だからこそ育成会の組織がどのようにあろうと、一番の主役となるのはその問題にもっとも近くにいる個々の会員であり、その方々がつくる例えば市町村の育成会なのです。都道府県育成会や全日本育成会は、それぞれより広域な問題に対応するためにある存在です。その関係は「上下」にあるのではなく、本来は「役割分担」だと思うのです。皆さんからの「困った」「どうかしてほしい」という声を提言として国の政策に反映させ、その一方で国からの施策や情報を正確に幅広く伝える。今だけでなくこれからも「みんながよくなるように」と、知的障がいのある人が暮らしやすい社会を目指す活動を支えていく。皆さんを束ねたり引っ張ったりすることだけではない、こうした手助けが全日本育成会の役割だと思います。」

と記しておられました。

私はこの文章を何度も読み返し、そしてこれからの自分が、少しでも親の会の活力になり、皆さんと共に進んで行きたいと思いました。

障がいのある人が一人で生活することは困難です。親なき後をどんな仲間と生活するのが、とても大切なこととなります。彼らの囲りにいる支援者と共に将来のことを考え、安心して心豊かな生活ができるようにする。私たちの出来る事から取り組み、親子共に安心できる日が実現するように前進していかなければなりません。一人では出来ないことを仲間と一緒に、そして信頼して子供を託せるように取り組んでいきたいと思います。

どうぞ皆様からの暖かいご指導とご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

